

例会は「パリの調香師-しあわせの香りを探して-」(11月15日)

全国映連映画大学参加報告

朝夕めっきり涼しくなってきました。みなさん、お元気ですか？

ロシアのウクライナ侵攻で世界中が心痛めている中、今度は、中東パレスチナのイスラム組織ハマスとイスラエルとの戦闘が激化し、人口が密集し、壁で囲われた狭いガザ地区への大規模攻撃が行われています。空爆の中、市民は南部への移動を余儀され、住居もなく、水・食糧・燃料・薬とありとあらゆる生活物資が不足しています。緊急の人道支援が求められます。また、ガザ地区だけでなくイスラエルの市民もおびただしい犠牲を出しています。イスラエルは、ガザ地区への侵攻を中止すべきです。直ちに停戦するよう願わずにはいられません。さて、今年最後の例会となります。やっと、例会を中止することなく開催できたこと嬉しく思います。マスクの着用は義務ではありませんが、お互い気を付けながら映画を楽しみましょう。

例会のお知らせ

第126回例会

■名称／「パリの調香師-しあわせの香りを探して-」

■日時／2023年11月15日(水)

1回目 PM2:00～、2回目 PM4:20～、3回目 PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古

川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受け取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／パリの調香師

■監督／グレゴリー・マーニュ

■出演／エマニュエル・ドゥヴォス、グレゴリー・モンテル、セルジ・ロベス、ギュスタヴ・ケルヴェン

■データ／2019年、フランス、101分

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■解説・ストーリー／パリを舞台に、振り返りを狙う調香師と人生がけっぶちの運転手の奮闘を描くバディムービー。調香師と運転手が、お互い自分にはない部分を補いながら共に仕事をこなしていく。

調香師のアンヌ(エマニュエル・ドゥヴォス)は世界中のブランドと仕事をし、クリスチャン・ディオールの香水「ジャドール」などをヒットさせてきた。だが、4年前に多忙と仕事のプレッシャーから突然嗅覚障害を発症し、それまでの地位を失ってしまう。今は嗅覚も戻り、地味な仕事だけをこなしながら静かに暮らす彼女は、元妻と娘の親権でもめているギヨーム(グレゴリー・モンテル)を運転手として雇う。

全国映連映画大学に参加してきました

全国映連(映画鑑賞団体全国連絡会議)第50回映画大学が東京で開催され、加古川シネマクラブから2名が参加しました。講師陣は、3日間で7名、内5名が女性です。今回のテーマは、「映画に見る平和・人権・ジェンダー」それぞれの立場で熱く語っていただきました。講師陣を紹介します。

9/22は、サヘル・ローズさん(俳優・タレント・イラン出身)、金聖雄キム・ソンウンさん(映画監督・ドキュメンタリー「オレの記念日」)、9/23は、浜田敬子さん(ジャーナリスト・サンデーモーニングコメンテーター)、瀬々敬久さん(映画監督「ラーゲリより愛をこめて」)、斎藤綾子さん(映画研究者・「ドライブ・マイ・カー論」)、9/24は、梶原阿貴さん(脚本家・俳優)('櫻の園'で俳優

デビュー「夜明けまでバス停で」を脚本)、川和田恵真さん(映画監督「ミスモールランド」監督・脚本)です。

第1講からとんでもない驚きから始まりました。サヘル・ローズさん「出会いこそ、生きる力」、12人兄弟でしたが、イラン・イラク戦争で4歳の時戦争孤児になり、7歳で養父母引き取られた後、日本に来ることになります。ところが養父からの暴力が酷くて、養母と一緒に家を出て路上生活を体験。12歳の時年齢を偽ってアルバイトし、生活費を稼ぐ毎日だった。そして一時イランに帰国した時に義伯父から性暴力を受け、身体と心がボロボロになりながら義母と一緒に日本に戻ってきました。今は、”表現 “の仕事に就いていますが、時々戦争孤児の体験がよみがえることがあり、「俳優」として「別人格の人間を演じることで過去の自分から逃げられる」と話されているときは、胸が熱くなりました。

第2講も同じで、金聖雄さん。「ドキュメンタリー映画『オレの記念日』で伝えたいこと」では、1967年布川事件で殺人犯として、29年間投獄された桜井昌司さん75歳と杉山卓男さん(享年69歳)が実は冤罪であったことがわかります。仮出獄後、冤罪など支援活動を行い、2021年に完全勝利するまでを監督が追いかけます。講演後に映画上映会があり『オレの記念日』を観ました。話を聞いた時より、映画の中の桜井さんは、明るい表情が多かった印象が残りました。獄中で「どん底をあじわい、いつか娑婆に出て無罪を勝ち取る迄、超ポジティブに生きる」と決め、本を読み、体を鍛え、靴職人として腕を磨き、獄中での思いを作詞・作曲して歌に残す。1996年ようやく仮出獄。殺人犯のレッテルを張られたまま仕事、結婚、拘禁症…2019年末期の肺がんを患い、そんな中でも冤罪事件支援活動とバイタリティーに動きまわっていく。映画の中で桜井さんは、「苦難は喜びの種だ。どんなに辛いことや苦しいことがあったとしても、それを喜びに変えられるのが人生だと思っている」と語っていました。会場で、「桜井さんが2023年8月23日残念ながら永眠されました。」と聞くことになりました。(芳)

前回の例会報告

9月12日(火)の9月例会では、海辺の美しい景色をもつ漁村を舞台に、7歳の少年の育ての母と生みの母の生き方と想いが描かれたヒューマンドラマ「夕陽のあと」を鑑賞しました。回収したアンケートは48枚で、「とてもよかった」または「よかった」45、「ふつう」2、「よく

なかった」1でした。「産みの親と育ての親、なかなか難しいテーマでした。」、「いろんな家族の形態があり、今は、家族構成が多様化している、でも絆は血縁だけでない、人間っていいなあと思わせてくれる映画でした。」などの感想がありました。

参加会員90名、明石シネマクラブから13名。

明石シネマクラブ例会情報

第75回例会

■名称／『ルイス・ウェイン
生涯愛した妻とネコ』

(2021年、イギリス、111分)

■監督／ウィル・シャープ

■出演／ベネディクト・カンバーバッチ、クレア・フォイ、アンドレア・ライズボロー、トビー・ジョーンズ

■ジャンル／伝記、ヒューマン

■解説／猫をモチーフにしたイラストで人気を集めたイギリスの画家ルイス・ウェインの生涯を、ベネディクト・カンバーバッチ主演で描いた伝記映画。

■日時／12月14日(木)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 121人(9月12日現在)

